



恋

する

ちん子は

まだ

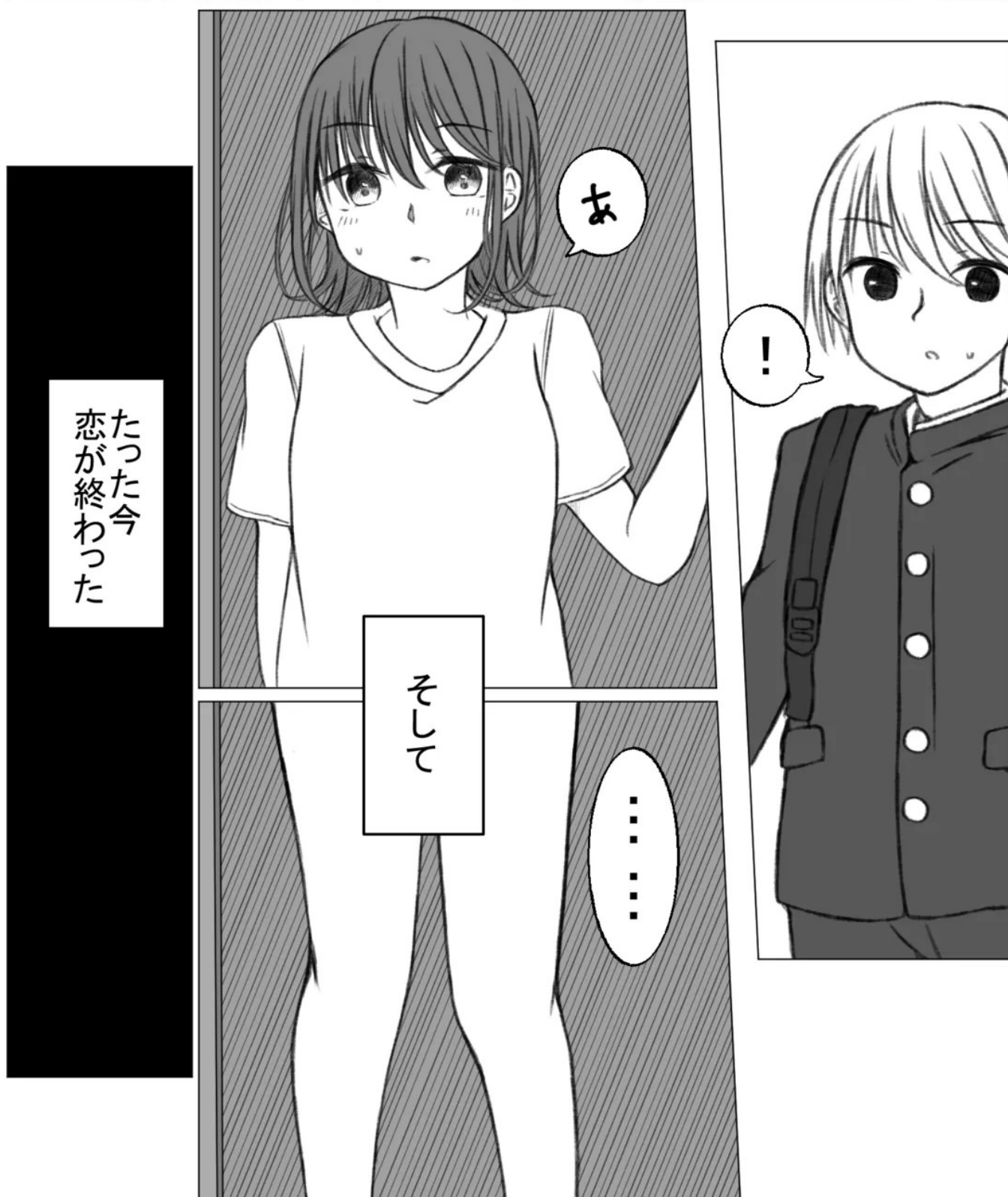
夢のなか

For adult only



ぴんぷん——





私は両性具有として
この世に生を受けた

「両性具有」は
この世界では
とても珍しくて

苦労はあったけど、

私は
みんなの愛を受け、

それほど悩むことも
なく育ってきた

ある時まで



痛みよりも
恐怖が勝った

まるで骨を
引き抜かれるような
自分がバラバラに
されそうになる感覚

この恐怖がいつ
終わったのか
覚えてない

だけど私は
この時気づいた

今まで
見ていたものの全部

本当のこと
なんかじゃなくて

私はまるで現実を見て
なかったんだってこと

その日から
私は閉じこもった

彼って私のこと
好きなんじゃない？

まあ私って顔は…
悪くないと思うし、

いやブスか…？

でもこんなに
毎日ちゃんと
来るなんて

いくら係の
仕事だからって
真面目すぎない？

好きじゃなきゃ
できないよね？

いや
考えすぎか…？

なんて



馬鹿みたいだけど、

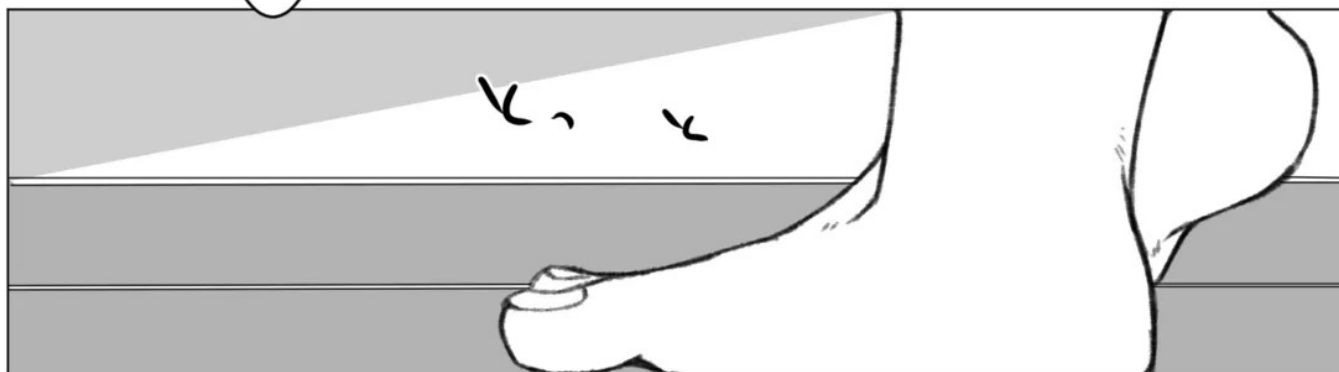
好きになったのは私の方だった

まあ、それも
もう終わった話だけど

ぽろぽろーん



...







僕が来るのが
遅かったから



君が学校に
来なくなった、
あの日…



だから君が
あんな目にあつて



あの日、
どうやって
あの地獄が
終わったのか。



彼が、
私を助けてくれたんだ…



思い出した。

ずっと君のことが
気になってた

だからこうやって
連絡係になったんだ
今まで黙ってたけど、

今、言わなきゃって思ってた

今度こそ
君のために力になれるかな

頬が熱い。
胸がドキドキする。

これが本当のことか
わからないけど

私、

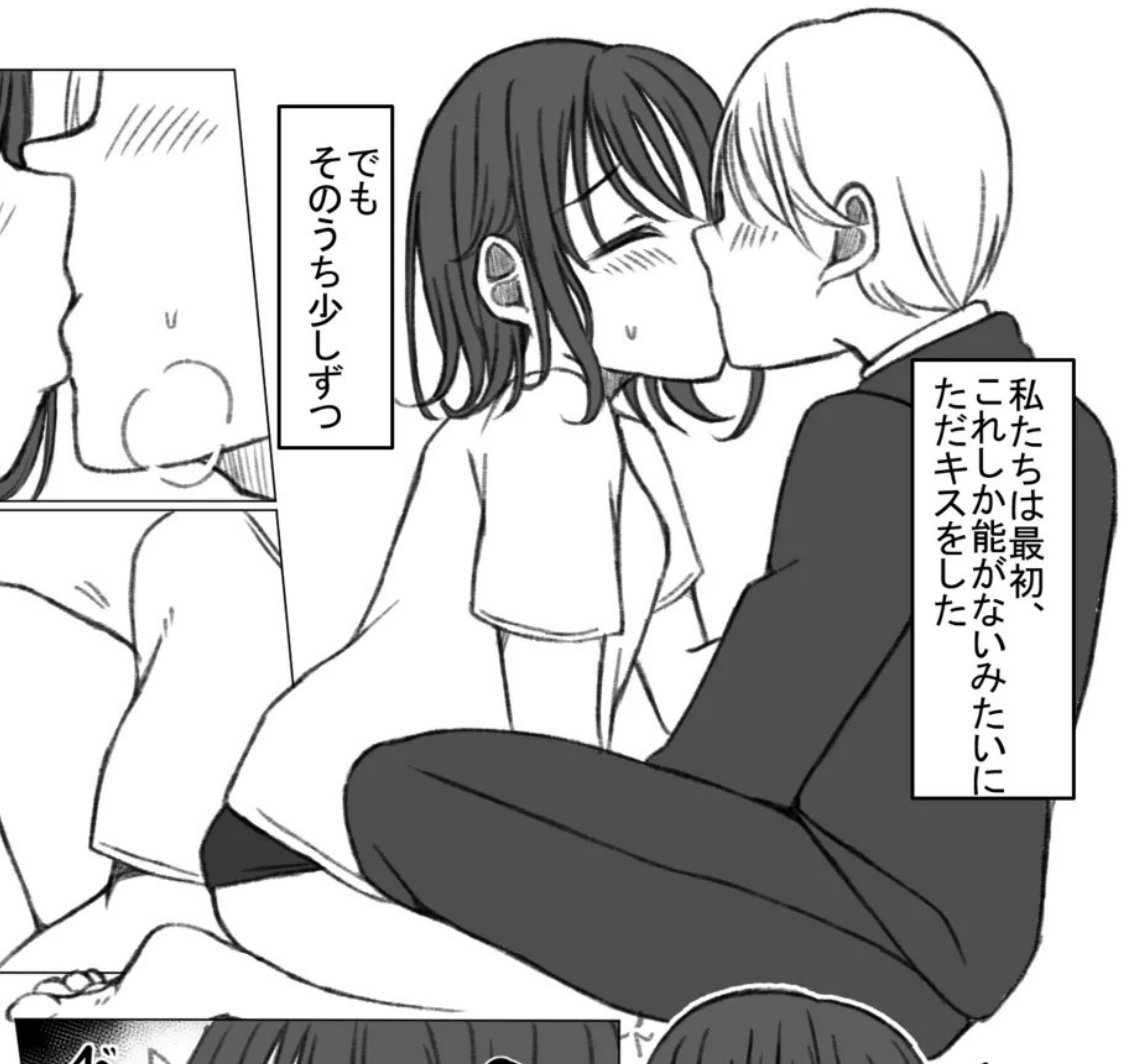
この人が好きだ。



でも
そのうち少しずつ



お互いに
したいことが
わかってきて



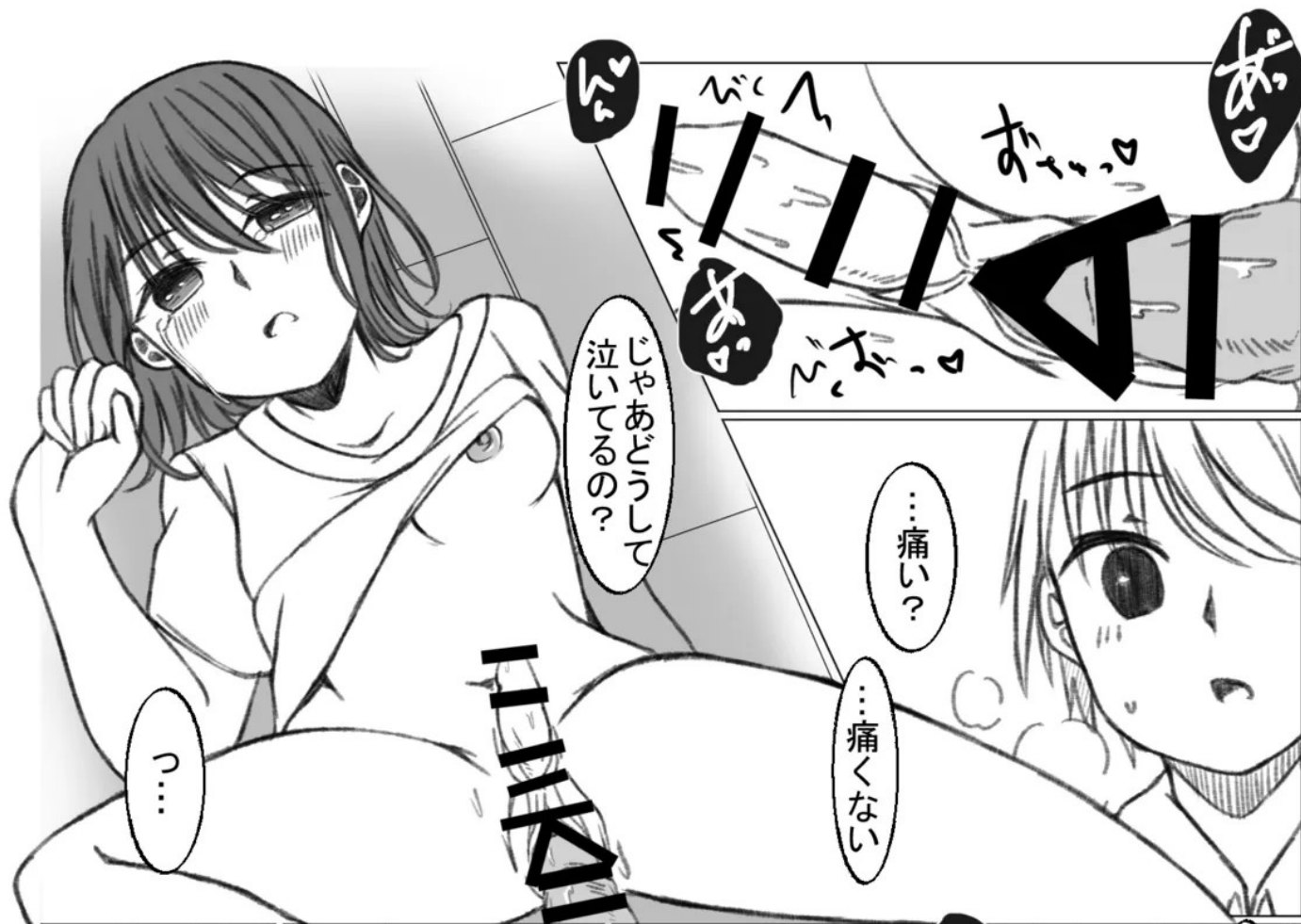
私たちは最初、
これしか能がないみたいに
ただキスをした

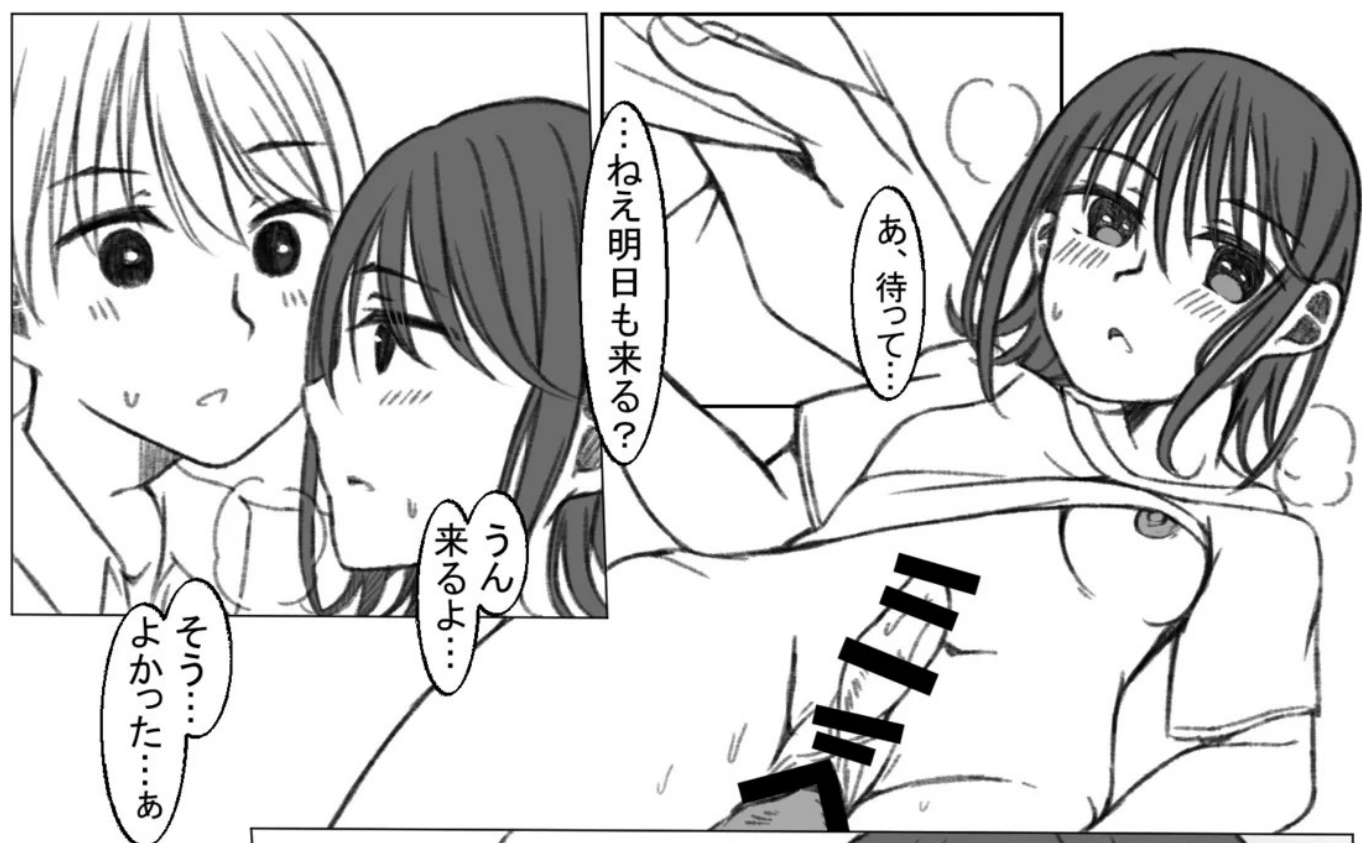


だけど

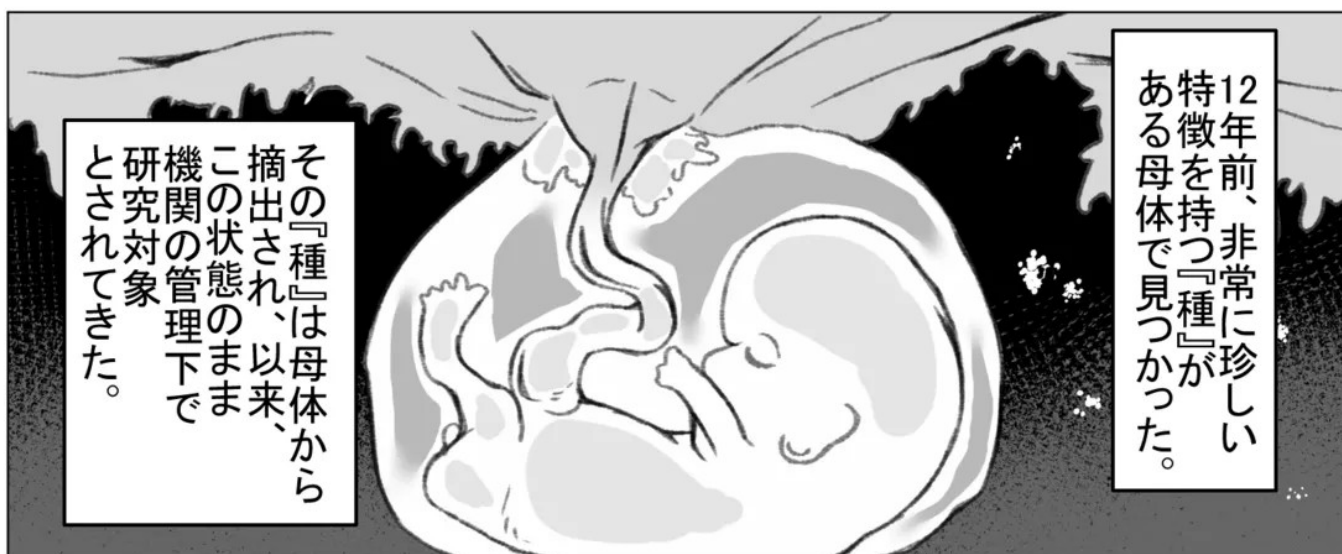


思いつくままに
そうしあった











これはぼくしか知らないことだが、「彼女」には「意識」がある。

その「意識」は12年間
ずっと眠っていて、
どうやらその間、
夢を見ているらしい。



そしてその夢は
外部から
与えられる刺激に

反応を示し、変化を
起こしている。



初めてそのことに
気が付いた瞬間から
ぼくは「彼女」の虜になった。

ぼくは「彼女」の意識と
接触しようと試み、
ついにはその最深处まで
たどり着いたのだ。

